



▲防災学習ではたくさんの質問がありました

23日には防災学習が行われました。最初に三原公民館において、市の防災課の職員による講義がありました。福良地区での避難訓練の様子

や子どもたちの避難への取り組みを紹介。各国・地域の子どもたちからは「避難所を今後増やしていくのか」「夜間避難訓練で見た問題への対策はどのようなしているか」といった質問がされました。その後、子どもたちは2班に分かれて行動。福良港津波防災ステーションを訪れ、同ステーションについて学習。さらに、足湯に浸かったり、うず潮観潮船に乗るなどして研修を楽しんでいました。



▲足湯を楽しむ訪日団の子どもたち

外国の中高生が市内で研修

当市で行われたアジア国際子ども映画祭にはアジア11の国・地域より中高生訪日団約100人が来訪しました。この訪日団は映画祭に先立ち、東日本大震災の被災地や市内の防災施設、学校などを訪れ、災害について学んだり日本の学生たちと交流を行いました。

訪日団は11月22日に淡路島を訪れ、島内各地の高校で島内の学生たちと一緒に書道などの体験をしました。

23日には防災学習が行われました。最初に三原公民館において、市の防災課の職員による講義がありました。福良地区での避難訓練の様子

アジア国際子ども映画祭 南あわじ市大会



海外から11の国・地域(ブルネイ、カンボジア、韓国、ラオス、マレーシア、モンゴル、ミャンマー、フィリピン、チャイニーズタイペイ、タイ、ベトナム)の子どもたち82人が参加して開催されました。



▲応援に駆け付けてくれたゲストによるフリートーク

市内で2回目の開催となるアジア国際子ども映画祭本選大会が11月24日、文化体育館で開催されました。

「子どもの心の中に内視鏡を入れよう」をテーマに始まった同映画祭は、子どもたちがホームビデオカメラを使って、作品テーマに沿った3分間の作品を制作します。今年のテーマは「あなたにとっての命」。国内から各少年矯正施設を含めた156作品、海外からは31作品の応募がありました。

当日は本選大会に先駆け、海外の子どもたちにも東日本大震災を知ってもらおうと宮城県南三陸町を訪れた市内小学生4人による発表「東北の震災を考える〜南三陸を訪ねて〜」と、南三陸町からの

作品応募者で今も仮設住宅で生活する高校生3人が伝える「3・11の出来事〜あの悲しい出来事を糧に歩き続ける〜」とした実際に震災を体験した子どもたちからの「東北の現状」を伝えました。

オープニングには杉良太郎名誉会長をはじめ、開催趣旨に賛同してくれた多くのゲストが駆け付け、楽しい話を繰り広げました。

続いて受賞作品の発表と上映が行われました。子どもたちが考える「命」がさまざまな視点で捉えられ、表現されていました。

杉名誉会長は「本趣旨で行われる映画祭は世界に1つしか存在しない。審査は上手下手に関わらず素直に表現された作品を選んだ。来年のテーマは『いじめ』。たくさん作品を待っています」と話しました。



▲テーマソング「Message」を合唱

本選大会結果

本選大会の結果を受賞名、応募者名(敬称略)、作品名の順に掲載しています。

◆杉良太郎名誉会長特別賞
青森少年院(青森)
「命はどこから来て どこへ行くのか?」



▲杉名誉会長から賞状を受け取る青森少年院長 登内さん(右)

◆法務大臣賞

グエン・トゥ・チャン、グエン・ティ・グエット・ハー、ホワン・フオン・リン(ベトナム)
「私の父」

◆外務大臣賞

コンダ・ジェームズフランシス・アギーレ、ベルガラ・カイルロベルトポール デラメルセド(フィリピン)
「歩道橋」

◆文部科学大臣賞

北海道北見緑陵高等学校放送局
「DANDELION」

◆優秀賞(4作品)

- ① ヘン・ソパニット、ヘン・レアン、チョウン・バンドル(カンボジア)
「幸せな生活」
- ② ス ウィン モン(ミャンマー)
「愛情を持って人生を築こう」
- ③ フラポーン・パントウラーサー、ラムモーンシン・ターナサック、ウライトーン・センサワーン(ラオス)
「憎い母」
- ④ 高梁中学校科学部A(岡山)
「生命の源」

◆入賞(5作品)

- ① イエ・ホンジュン、ワン・ユル、パン・ウエイヤン(チャイニーズタイペイ)
「目まぐるしい変化」
 - ② バットトルガ トウグルドル(モンゴル)
「命の価値は?」
 - ③ 大野市立開成中学校科学技術部(福井)
「おりがみ 食物連鎖」
 - ④ ファンタイン・ニヤン、マイ・カー・ツィ、ホアン・グエン・フオン・リン(ベトナム)
「少年と乞食」
 - ⑤ 佐々比香莉(滋賀)
「6月のひまわり」
- ※受賞作品を市ホームページに掲載中。子どもたちの心の中を覗いてみませんか。

絵画で市の魅力を発信

ASAトライアングル絵画コンクール



▲賞状を受け取る子ども

として、3市それぞれの子どもたちから「我がまち自慢」の絵画を募集してコンクールを開催。イングランドの丘において12月1日、入賞者の表彰式が行われました。

特産の淡路島たまねぎや鬼瓦、うず潮など市の魅力にあふれた絵が並びました。これらの絵は、鳴門市や東かがわ市の絵と共に12月10日までイングランドの丘で展示されました。

淡路人形の絵を描いて、南あわじ市長賞に選ばれた鯉森智

沼島の活性化をめざす

沼島地区地域おこし協力隊

市役所中央庁舎市長室において12月3日、「沼島地区地域おこし協力隊員」の任用式が行われ、森本真理子さんと大原浩さんの2人が任用されました。

沼島では人口減少が進み、魚価及び漁獲量が低迷する中、地域を活性化するため、様々な事業を展開しようとしています。その一環として、沼島の外から若い力を招き、新しい考え方や活力を生み出すために地域おこし協力隊員

香さんは「大きな賞をとれてうれしい。淡路人形の着物の柄は難しかったので、和紙を貼って作った」と話しました。

受賞者の一覧は13頁をご覧ください。



▲子どもたちの作品

を募集しました。森本さんは福岡市から、大原さんは神戸市からそれぞれ沼島へ移住しました。2人は、沼島地区の活性化や起業を目指した地域振興対策などの業務に携わります。

森本さんは「沼島は可能性にあふれた島。元気に満ち満ちたところにするため、一生懸命頑張りたい」と話し、大原さんは「一歩ずつでも活性化できるように進んでいきたい」と話しました。